



希望の風を
より高く
上げよう

聞く耳を持たはすの

日本の首相は、今どきに!

あたらしい年、2024年を迎えたが、しかし家計は厳しく、物価の値上がりは変わらない。昨年は観光業が目覚ましく、とりわけ円安のメリットは、観光地を外国人でいっぱいにした。

また、円安と物価高を政府は放置し、声高に総合経済対策、そして大幅賃上げをどぶち上げる岸田内閣に多くの国民は強い不満を持つ。加えて物価高対策と称した「1人4万円の定額減税」があり、たった一度だけの還元、しかも法改正まで要し6月によやく実施されるという。「聞く耳」を公約にした岸田首相はどこに行ったのか。

あまりにもスピード感がなく、メリットの効果が疑問視され、各方面から批判の声が上がり糾弾の嵐となっている。当然である。

また2025年開催の大阪・関西万博がある。これを主催する日本国際博覧会協会(万博協会)は、11月20日にこれまで1850億円としていた会場建設費が最大2350億円に増える見込みであることを国、大阪府(市)、経済界の3者に伝えた。

当初の1250億円であったから約1.9倍の大幅な増額である。

説明では、物価上昇が増額の主な要因であり、

資材価格(443億円)と労務単価(84億円)が上がった結果、計527億円増えた。「想定を超える物価上昇の影響」であると報告をしている。

また物価上昇を超える大幅賃上げの実現である。基幹産業を中心とする連合は5パーセント(1万円)の要求をしている。しかし忘れてはならないものとして人件費も含め、諸物価の値上がりに対する価格転嫁がある。6月に東京商工会議所が公表した「中小企業の景況感に関する調査」によると、価格協議・価格転嫁の動向について「価格協議できている」企業は66.3%、「4割以上の価格転嫁が実現できた」企業は46.4%と、一定の効果がみられるとしながらも、発注企業からの「取引を打ち切られることを恐れて価格協議すら実施できない」。あるいは「価格協議を実施したものの一方的に取引休止の通知を受けた」といった悲痛な声が多く寄せられていると報告されている。ましてやパート、契約労働者に対する賃上げ効果を期待することは極めて低いと言わざるを得ない。賃上げによって現役世代は少しは耐えられるかもしれない。しかし年金を受給しながら貯金を取り崩して生活しているような高齢者、とりわけ国民(基礎)年金のみのひとり生活の方には厳しい生活が待っていることを忘れてはいけないと思う。

膨れ上がる防衛品の調達価格

そして物価上昇による日本に防衛予算がある。

「ここ」の事例があるので報告をしたい。

2023年度から5年間で防衛費を総額約43兆円に増やす方針を巡り、円安に伴う装備品調達価格の上昇にあるにもかかわらず総額は堅持する意向がある。立憲民主党の辻元清美氏は防衛力強化と円安の影響を考えた場合「装備品を減らすか増税か、どちらかしかない」と指摘している。

(参議院予算委員会・11月27日)

財務相の諮問機関である財政制度等審議会の分科会は、2024年度の概算要求でヘリや潜水艦などの調達価格が、円安や物価高によって軒並み上がっていることを指摘している。

背景にあるのが物価高や円安が進んだことにある。航空自衛隊で使われる大型輸送ヘリCH-47が24年度の概算要求での購入単価は216億円と約2.8倍に膨らんだ。また国産のC2輸送機も、23年度の平均単価は297億円で同29%増である。製造に使う素材価格が上がったためだ。以下前記財政制度審議会の分科会2024年度概算要求の資料の追加を報告したい。

| | | | |
|-------------|--------|---|--------|
| ▲P-1哨戒機 | 224億円 | ↓ | 326億円 |
| ▲SH-60K哨戒ヘリ | 71億円 | ↓ | 98億円 |
| ▲たいけい型潜水艦 | 705億円 | ↓ | 951億円 |
| ▲16式機動車 | 7.2億円 | ↓ | 9.0億円 |
| ▲10式戦車 | 13.3億円 | ↓ | 16.7億円 |

(注)財政制度等審議会の分科会の資料は

各装備品を写真入りの一覧表になっている)

【一寸ひょうとん】

気づいたこと・感じたこと



放射性廃棄物は行き場を失っている

廃炉先進国イタリアの苦悩

2011年3月11日東日本大震災、そして東京電力福島第一原発が水素爆発を起こす。現場から60キロ離れた郡山に住む私はその3日後の3月14日から4月19日まで、県外の仲間の皆さんに毎日欠かさず報告のメールを送り続けた。そして最後のメールに「燃やしてはならない、消せない火を『私たちは』使ってしまった」という見出しの編集後記を綴った。

そして、あれから14年目になろうとしている。

11月30日の毎日新聞に掲載をされた「廃炉先進国」イタリアが原発回帰方向転換の背景とその矛盾」という見出しの次の記事を読む。

「世界会に先駆け1987年に脱原発を決めたイタリアは、国内4か所の原発すべてを90年までに停止、そして現在も廃炉作業が続く。そんな中イタリア政府は、2023年9月に原発新設のための議論を開始した。気候変動対策やエネルギー危機を背景にした「廃炉先進国」であるイタリアの原発回帰である。順調に進むのだろうか。——中略——

日本と同様、エネルギー資源に乏しいイタリアの原子力政策は揺れていた。そして今原発新設への議論が再燃している。だが原発再開の是非を問う11年6月の国民投票の前に、東京電力福島第一原発事故が起き国民の94%が原発の再開に反対

した。そして今、原発新設への議論が再燃している。メローニ首相率いる「イタリアの同胞」と「同盟」フォルツァ・イタリア」の3党は、23年5月に原発の活用を検討する動議を下院に提出し、可決された。

イタリア政府は、世界的に開発が進む小型原子炉「小型モジュール炉(SMR)」の新設を検討している。だが一方では「核のゴミ」を収容する国立中間貯蔵施設の建設のめどがたたず、廃炉作業で出る放射性廃棄物は行き場を失っている。その先の最終処分場の建設に向けた議論は始まっていない。

「忘れられるための施設 オンカロ」

副団長・井田哲治 2013年1月

ベテランジャーナリストによるエッセー、日本記者クラブ主催の取材団の次の報告がある。

代表取材チームの一員として地下400メートルを超える場所にある埋設場の施設を見る。直径約2メートル、深さ約8メートルの立坑の中に、使用済み核燃料が詰まった金属製のキャスターを入れる。壁面などから漏れ出す地下水は少なく、施設は拍子抜けするほど単純だった。この地域の岩盤が19億年前に形成され、厚さが60キロにもなるものだという。地震や火山活動、地下水の流動が活発な日本とは大きな違いがある。

「地上の施設もすべて撤去して自然の状態にする。地上にはなんのマークも残さないで、誰もここに何かがあるとは気付かないだろう。『忘れられるための施設』を造るのだが、それでも一向に構わないと思う」というのが施設を案内してくれた地質学者の言葉であった。

一見、順調そうにみえるフィンランドの原子力開発だが、東京電力福島第一原発事故以降、さまざまな変化が見られる。事故後、初めて建設計画が具体化したとして注目されたフエンノボイマ社のピュハヨキ原発は、同社に34%を出資していたドイツのイーオン社の撤退で、計画の中止まで取りざたされるようになっていく。

そして「10万年という期間」を考える

また、オンカロ計画にも回答が出せない問いがついてまわる。

この小さな島が10万年後にはどうなっているのだろうか？

そしてその時、そこに誰が住んでいるのか？ 時間をイメージするために例を挙げると、10年前のフィンランドは、部分的に氷河に覆われており、ホモ・サピエンスがアフリカ大陸から中東への移動を始めていた。

地質学者は述べている。再度氷河期が訪れる可能性は排除できないと。フィンランドは特に地震国というわけではない。しかしオンカロが、今後数千年で起こる可能性のある気温低下を原因とした地質構造の変動にも耐えられる設計になっているのかということである。オンカロは永久保存ではない。

忘れられるための「仮の施設」ということを決して忘れてはならない。そのことを私たちは今のイタリア、そしてイタリアの現実からまなぶ必要がある。

行き場を失った核のゴミ



三菱電機、防衛装備品の生産強化へ！

(10月25日・朝日新聞デジタル)

三菱電機は、25日レーダーなどの防衛装備品の開発と生産の体制を強化するため、国内3力所の工場などに約220億円を投じて生産棟を8棟新設すると発表した。政府の防衛費の増額を受けて受注が増えると想定しており、2025年以降に順次完成させる。

新たに生産棟を作るのは、鎌倉製作所(神奈川県鎌倉市) 郡山工場(福島県郡山市) 電子通信システム製作所(兵庫県尼崎市)である。

レーダーシステムや、妨害電波などを出す「電子戦システム」、ミサイルに関わる「火器管制システム」などを開発、製造するとい



図11三菱電機提供・建設計画の郡山工場

明けまして

おめでとぅございませう

戦禍の広がり、政治の乱れ、物価の値上がり、そして高齢者の生活は脅かされています。今こそ高齢者の団結が求められています。健康に留意し、粘り強く頑張りましょう。

2024年1月

会長 杉原二雄
副会長 河辺信雄
事務局長 降矢通敦



報告・提言のひろば



■党内のリングリスト(配信一覧)に転送し、皆さんと共有させていただいています。神奈川県連合では総支部毎、あるいは総支部単独では企画が難しい地域では近隣総支部で連携して、社民党の「見える化」のための街宣行動に取り組んでいます。いつ選挙になるか分かりませんが、県内の各選挙区で「市民と野党の共闘」をめざす市民団体の活動も本格的になってきており、私も川崎市内の社民党宣伝行動だけでなく、色んな市民団体の街頭宣伝行動に参加させていただくことが多くなっています。沖縄・南西諸島では以前から米軍と自衛隊の共同訓練などが行われ、沖縄県民の皆さんは非常な危機感を持って「沖縄・南西諸島を再び戦場にしない!」ための行動を続けています。11・23沖縄県民大集会に連携して、神奈川でもいくつかの集会やパレードが取り組まれました。本日も午後川崎市内で沖縄と連帯する市民団体の宣伝行動が予定されており、私も参加させていただく予定です。川崎市内でも先日、「有事」の場合に負傷した自衛隊員を自衛隊の救急車が市内の一般病院に搬送する、という想定での訓練が行われ、これに対して少数ですが、市民が集まって抗議の声を挙げました。このように、多くの市民が知らないところで、着々と戦争の準備が進められていることに、非

常な危機感を覚えます。街頭宣伝で、出来る限り多くの市民に、今の政治の危険な方向性を訴えていきたいと思っております。

■今年最後のニュース配信ありがとうございます。暑かった夏が何故か悲しくなる様な寒さが続く今日です。コロナの罹患は落ち着きつつありますが、インフルは流行しています。小生も先月中旬予防接種、第7回目のコロナ予防接種を今月上旬終了しました。先般、地方選も終わりお疲れ様でした。自民も低迷しましたが野党も今一。若年層の関心度が低調の様です。昨日昔の職場の「OB会」が二本松で行われ3年ぶりに出席しました。懐かしい面々と酒を飲みながら会話楽しかったです。バス、電車での往復、これも久しぶりの利用良かったです。ニュースで取り上げられたバナナの効用ですが、コロナでおなじみの大谷クリニクスの院長が、朝食に『納豆とバナナ』を食べると1か月後には睡眠や体調の改善が見られたと語っていました。おすすめはバナナをペースト状にして納豆と混ぜた『納豆バナナトースト』です。試してみようと思います。

■地道な取り組みに敬意を表します。継続する事は簡単ではありません。インフルエンザやコロナ等、皆様御自愛ください。

■毎日の新聞、テレビを見ていて、岸田政権の進める「政治の劣化」にあきれ返っています。支持率が最低を更新しているとの報道に「当たり前だ」と怒り、国民がもっと日常生活から、岸田政権の評価し政治のあるべき姿を判断すればもはや岸田政権は不信任でしょう。すぐに岸田首相は退陣し政権

の選択を国民にゆだねるべきでしょう。また野党も、今の状態では政権を担えるような状態ではないことも国民はわかっています。こんな状況が続くことは国民生活にとって非常に不幸なことです。我が国の政治の劣化は国民の生活はますます悪くすることでしょう。また、国民の生活を守ろうとする「労働組合」の運動もどっちを向いているのかわかりません。今やるべきことは、直ちに物価上昇を止める政策を政府に要求することではないでしょうか。労働者の生活防衛、生活改善の戦いこそ労働組合のもっとも基本的な課題であると私は思います(労働組合運動の経験者として)。私たち年金生活者にとっては年金の目減りは大きな問題です。そして医療費の窓口負担の引き上げも大問題です。高齢者も生活に関わる年金、医療、介護などの高齢者に関わる生活課題、社会保障制度についても、「OB・Gニュース」でも提起されているように、当事者である私たち高齢者が結束して何らかの行動を起こさなければなりません。各地の社民党にそのための指導方針を求めたいと思います。

■ニュースの編集作業は本当に大変です。私も、年4回の定例会を終了後に議会報告書を発行しています。二人の方にチェックをしていただき発行しています。その事で議会定例会が終了する思いです。11月30日から12月定例会が始まります。

25日、その議会定例会前の「市政を考える会」が開催されます。喜多方市議会社民クラブ(小生と高畑議員)と、支えて下さる方々との意見交換が行われ、それを受けて12月定例会に臨みます。

■私も固有名詞が出てこないことなど日常茶飯事で、固有名詞に限らず会話の途中で言葉が思いつかないこともしばしばです。実は10日ほど、仕事で一時期過した台湾に行ってきました。コロナ前に比べて台湾も色々と変わっていることを実感してきました。折しも総統選を控えてTVニュースは選挙戦の話でもちきりでした。また台南では、近づく中国軍機に対するスクランブル発進と思われる2機編成の戦闘機が轟音を響かせながら日に何度も頭上を飛んでいました。その一方、TVニュースでは一部の親中国のチャネル以外は中国の「ち」の字も、習近平の「し」の字も伝えません。まちがっても中国を刺激するような内容は避け、両国関係をなんとかしても現状維持でキープしたいという台湾の多くの人の気持ちを感しました。三菱電機郡山製作所が軍事産業の生産工場として組み込まれたこと、オーディオが好きで配属を希望して一時期を過ごした身としては残念です。先日もフィリピンにレーダー設備を無償供与するというニュースがありました。長きにわたる自民党政権の政策である防衛整備品の輸出、企業内組合の姿勢、そして現在の世界情勢、ひいては若者の意識の変化などの結果として、軍事化に対し問題にすら感じなくなること、そのような社会の気分には危惧を抱きます。

■私の自宅の周りの住民もそれぞれが高齢者になっている。さらにご主人を亡くされ現在は独居という方もいる。また奥さまを見送った方もいる。そして過日、その一人である90代後半の独居老人が

緊急入院をされた。1ヶ月ほどの入院をして家に戻った。しかし、その自宅の前には「介護施設の車」が止まるようになった。元気で庭木の世話をしていたが年には勝てないということになったのかと案じながらいたが、しばらくして亡くなられたとの報告を受けた。若い頃、住んでいた近所にいたお年寄りの言葉を思い出す。それは「畑に出ていて土いじりをしてるとき突然倒れそのままになった。そんな終わり方をしたいもの」と。「暖かい太陽の光を受け、そしてそのまま『土にかえる』」。その老婆の一言に死生観を感じたことを記憶している。さて今般、家でただ一人、息を引き取ったであろう孤老はどうであったのか。そんなことを思い、手を合わせた。他人ごとではない。

■コロナが5月8日に五類移行。緊急事態の終了となったが未だマスク着用は解けない。毎月のニュースの配達は感謝し元気をもらい、記事には感動を受けています。

■書面総会は残念でした。OB・Gニュースは隅から隅まで読んでいます。そして共に怒ったり、うなずいたり。またなるほどと楽しんでいきます。すぐそこに迫っている老後を心配します。過日、「会津こるり観音」にお願いをしてきました。(笑) 高齢者の問題は深刻です。



今般は9名の方の寄稿を掲載しました。今後
も皆さんと共に「参加の編集」に心がけます。
ありがとうございました。
(事務局)